

平成25年度病害虫発生予報第10号

平成25年12月5日
鳥取県病害虫防除所

予報の概要

| 区分 | 農作物名 | 病害虫名 | 発生時期 | 予想発生量 |
|----|-------|-------|------|-------|
| 野菜 | ラッキョウ | 白色疫病 | 平年並 | 平年並 |
| | イチゴ | うどんこ病 | 平年並 | 平年並 |
| | | 灰色かび病 | 平年並 | 平年並 |

気象予報（抜粋）

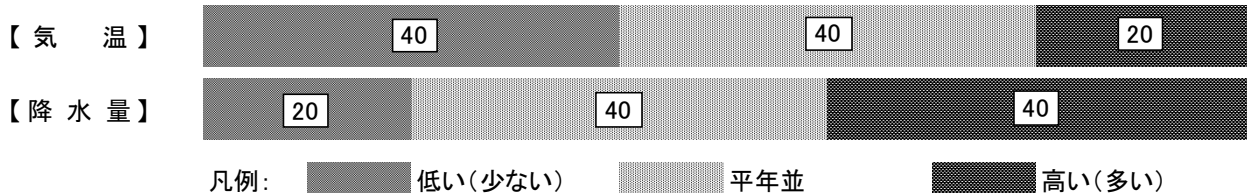
1か月予報（12月1日～12月30日：11月30日、広島地方气象台発表）

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

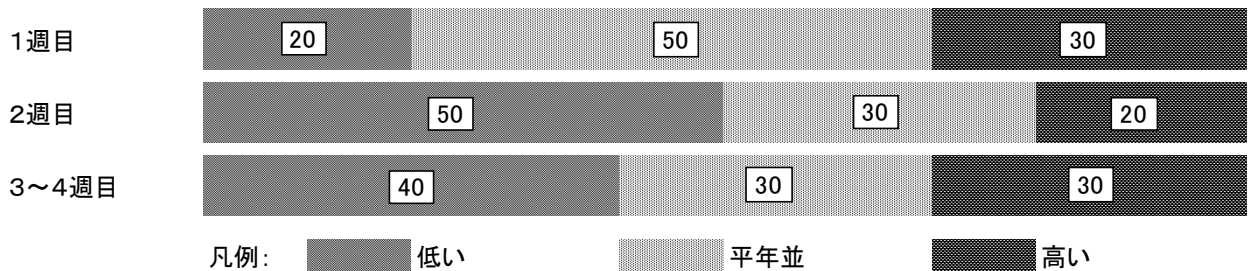
山陰では、平年に比べに曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、低い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



野菜

[ラッキョウ]

1 白色疫病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬現在、県東部及び中部の現地調査ほ場における発生量は平年と比べてやや少ない。

イ 本病は、晩秋から初春の連続降雨や積雪により発病が多くなる。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想されるが、今後の降雪状況によっては多発する可能性があるので注意する。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ほ場の排水対策とともに、年内の薬剤防除を徹底する。

イ 薬剤防除は、発病前からの予防散布が効果的である。12月中～下旬にはフォリオゴールド1,000倍液、ホライズンドライフロアブル1,000倍液などを散布する。

ウ 1～2月の連続降雨後及び雪解け時に、フォリオゴールド1,000倍液、ホライズンドライフロアブル1,000倍液、フロンサイド水和剤1,000倍液などを追加散布する。

エ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一成分の薬剤の連用は避ける。

[イチゴ]

1 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬現在、現地調査ほ場における発生量は平年並である。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発後の防除は難しいため、予防防除に重点を置く。薬剤は、表1を参考に使用する。

イ 既に本ほ場で発生している場合は、薬剤を3～5日間隔で替えて輪番散布する。その後、病勢が抑制されれば、7～10日間隔の薬剤散布に戻す。

ウ QoI剤（アミスター20フロアブル及びストロビーフロアブル）は、機能性展着剤と混用すると薬害がでやすいので、これらの展着剤は加用しない。

エ DMI剤（ラリー水和剤など）を使用する際は、カリグリーンなどを混用すると防除効果が高まる。

オ 硫黄粒剤のくん煙処理は、発病後の効果は低いため、発病前からの予防的な処理を行う。

カ 薬剤散布は、薬液が葉裏や芽の間にもよくかかるように丁寧に行う。

キ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤及び同系統の薬剤の連用は避ける。

表1 イチゴうどんこ病の本圃における主な防除薬剤

| 農薬系統分類 | 薬 剤 名 | 希釈倍数・使用量 | 使用回数 | 収穫前 日数 | 効果 | |
|------------------------|--------------|----------------------------|------|-----------|----|----|
| | | | | | 予防 | 治療 |
| 無機硫黄 | 硫黄粒剤 | 6～16 g /2000m ³ | — | — | ○ | |
| | イオウフロアブル | 500～1,000倍 | — | — | ○ | |
| 有機銅 | サンヨール | 500～1,000倍 | 6 | 前日 | ○ | |
| アニリピ°リジニン系 | フルビ°カフロアブル | 2,000～3,000倍 | 3 | 前日 | ○ | |
| | フルビ°かくん煙剤 | 50g/500m ³ | | 前日 | ○ | |
| グアニジン系 | ベルケート水和剤 | 4,000倍 | 2 | 前日 | ○ | |
| | ベルケートフロアブル | 2,000～4,000倍 | | 前日 | ○ | |
| グアニジン系・ ヒト°ロキシアニト°系 | ダイマジン | 2,000倍 | 2 | 前日 | ○ | |
| S D H I 剤 | アフェットフロアブル | 2,000倍 | 3 | 前日 | ○ | |
| Q ° I 剤 | アミスター20フロアブル | 1,500～2,000倍 | 3 | 前日 | ○ | ○ |
| | ストロビ°ーフロアブル | 3,000～5,000倍 | 3 | 前日 | ○ | ○ |
| D M I 剤 | ラー水和剤 | 4,000～8,000倍 | 3 | 前日 | ○ | ○ |
| | ルビ°ケン水和剤 | 4,000倍 | 3 | 前日 | ○ | ○ |
| | ハ°イコラル水和剤 | 5,000倍 | 3 | 前日 | ○ | ○ |
| | トリフミン水和剤 | 3,000～5,000倍 | 5 | 前日 | ○ | ○ |
| | トリフミンジ°ェット | 50 g /400m ³ | | 前日 | ○ | ○ |
| | スコア顆粒水和剤 | 2,000倍 | 3 | 前日 | ○ | ○ |
| | パ°ンチョTF顆粒水和剤 | 2,000倍 | 2 | 前日 | ○ | ○ |
| | パ°ンチョTFジ°ェット | 50g/400m ³ | | 前日 | ○ | ○ |
| キノキサリン系 | モレスタン水和剤 | 3,000～4,000倍 | 2 | 前日 | ○ | ○ |
| 脂肪酸グリセリド° | サンクリスタル乳剤 | 300～600倍 | — | 前日 | | ○ |
| 無機化合物 | ジ°ーファイン水和剤 | 750～1,000倍 | — | 前日 | ○ | ○ |
| | カリク°リーン | 800～1,000倍 | — | 前日 | | ○ |
| | ハーモメイト水溶剤 | 800～1,000倍 | — | 前日 | | ○ |

2 灰色かび病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬現在の発生量はやや少なく、発生が多くなるのは平年並の3～4月頃と予想される。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 枯れた下葉や病果は早めに除去する。

イ 하우스内が20℃前後で多湿になると多発しやすいので、随時、通風換気を行い、必要以上の灌水は避ける。

ウ 使用する薬剤は、表2を参考に7～10日間隔で輪番散布する。

エ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤及び同系統の薬剤の連用は避ける。

表2 イチゴ灰色かび病の本圃における主な防除薬剤

| 農薬系統分類 | 薬剤名 | 希釈倍数・使用量 | 使用回数 | 収穫前日数 |
|-----------------------|---------------|----------------------------|------|-------|
| 有機銅 | サンヨール | 500倍 | 6 | 前日 |
| アニリン・リミジン系 | フルビ°カフロアブル | 2,000～3,000倍 | 3 | 前日 |
| | フルビ°かくん煙剤 | 50g/500m ³ | | 前日 |
| ジカルボキニト°系 | ロブ°ラール水和剤 | 1,500倍 | 4 | 前日 |
| | ロブ°ラール500アグア | 1,000～1,500倍 | | 前日 |
| | ロブ°ラールくん煙剤 | 100g/300～400m ³ | | 前日 |
| | スミレックス水和剤 | 2,000倍 | 3 | 前日 |
| | スミレックスくん煙顆粒 | 6g/100m ³ | | 前日 |
| SDHI剤 | カンタスト°ライフロアブル | 1,000～1,500倍 | 3 | 前日 |
| | アフェットフロアブル | 2,000倍 | 3 | 前日 |
| QoI剤 | アミスター20フロアブル | 1,500倍 | 3 | 前日 |
| フェニル°ロール系 | セイビ°ア°フロアブル20 | 1,000～1,500倍 | 3 | 前日 |
| フェニル°ロール系・ヒト°ロキシアニト°系 | ジ°ヤストミト°顆粒水和剤 | 2,000～3,000倍 | 3 | 前日 |
| グ°アニジン系 | ヘルクートフロアブル | 2,000倍 | 2 | 前日 |
| グ°アニジン系・ヒト°ロキシアニト°系 | タ°イマジン | 2,000倍 | 2 | 前日 |

[お知らせ]

農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、周辺への飛散には十分注意しましょう。

農薬の詳しい登録内容は、独立行政法人 農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報検索システム」から検索できます。(http://www.famic.go.jp/)

なお、農薬の使用や防除指導等に際しては、農薬のラベルを必ず御確認ください。

<鳥取県病虫害防除所ホームページ>

アドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/tottori/>

病虫害発生予察情報、フェロモントラップ調査結果（ナシのシンクイムシ類）などの参考情報、病虫害の診断方法などの情報をお知らせしていますので、ご利用下さい。

<お問い合わせ>

普通作物関係：〒680-1142 鳥取市橋本 260

鳥取県病虫害防除所

(TEL：0857-53-1345、E-mail：boujyot@titan.ocn.ne.jp)

もしくは

鳥取県農林総合研究所農業試験場環境研究室

(TEL：0857-53-0721、FAX：0857-53-0723)

果樹・野菜・花き関係

〒689-2221 東伯郡北栄町由良宿 2048

鳥取県農林総合研究所園芸試験場環境研究室

(TEL：0858-37-4211、FAX：0858-37-4822)

※予報第11号の発表は、2月6日（木）の予定です。